

応援され上手で、応援上手な竹下先生は、

大阪を代表する「おじちゃん」かも

ポジティブ雰囲気・ポジティブ内容のご講演。元気を頂きました。

通りの良い元気はつらつのお声、明るく人を引き付ける存在感、あっという間にポジティブな雰囲気にのまれながら、お話を伺いました。オンライン上で拝聴したにもかかわらず、先生の圧倒的な存在感が心地よかったです。

現在、私は61歳です。子どもの頃は、61歳の自分が、仕事をしている、おしゃれをしている、医学博士を取得して、2度目の大学院の院生をしているという、今の状態を想像できませんでした。何が、自分を動かしているのだろうか・・・と考えてみました。

女の子は、お嫁さんになるのが幸せ、勉強はできないほうがかわいい、と両親に呪文のように言われ続けた子供時代。勉強は好きだったけれど、女の子は勉強できなくても・・・の考えに自分も逃げて諦めて、勉強を追及できなかった思春期・青年期時代。結婚して、女・妻・母として生きる窮屈さ、小笹祥子という個人を抑え込まれた感覚が怒りとなり、やっと、本当の自分がわかりました。

諦めていた自分と決別して、今の条件の中で、何ができるかを考えるようになりました。怒りによって力を発揮するタイプだったようです。

先日、私のスーパーバイザーより、「小笹さんは大阪のおばちゃんタイプ。困っている人にアメをあげるタイプ。放っておけない」と言われました。その時に思ったのは「大阪のおばちゃんは世話焼きだけれど、損得勘定も同時にしている。」と思いました。

応援され上手であり、応援上手な竹内先生は、大阪を代表する「おじちゃん」かも・・・と思いました。「薄利多売」で「ボチボチ行こか。」のように。（ご出身は大阪ではないのですが。）

明石家さんまの、対話力に通じるものを感じました。

ユーモアを交えながら伝える事実、困りごとをリフレームして笑いと普通に変換する思考力、嫌みのない自己中な性格、巻き込まれることを諦めさせる強引さ、そのすべてに人間愛を感じます。

竹下先生のご講演を聞きながら、心の中で何回も唱えました。

「自己中万歳！」と。

心と体が元気になるご講演、ありがとうございました。

医療福祉ジャーナリズム分野
修士課程 1年 小笹祥子